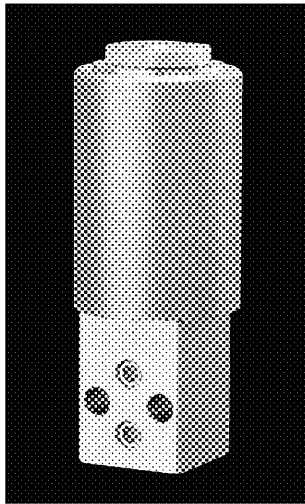


コフロック、中国生産2倍

流体計測 制御機器 子会社を移転・拡張

【京都】コフロック（京都府京田辺市、小島望社長）は、2026年1月に中国・上海市の生産販売子会社を同市内で移転・拡張し、流体計測制御機器の現地生産能力を2倍に増やす。現地顧客からの需要増加やローカル競合他社の台頭、同国の国産化政策への対応などが目的で地産地消を進める。投資額は明らかにしていないが、大きくはないという。同社は2028年度にも、中国事業の売上高を現状比約2倍の10億円規模にしたい考え。



▲現在地の近隣で床面積が現状より5割広い物件を確保した。25年内に内装を整え、26年1月中に移転する。現状は日本から半製品を分析機器向けなどの比例電磁弁

送って上海で組み立てて調整し、出荷する方式。将来は現地部品の採用も視野に入れる。今回の移転拡張により、分析機器向けなどの比例電磁弁と、一般産業機器向けマスフロ

ーコントローラー（MFC、流量制御機器）の現地生産能力を高め、地産地消の割合を増やす。

いずれも幅広い製品に使われており、電気の力でバルブを制御する比例電磁弁は多くの分析機器メーカーが採用している。MFCについては一般産業機器のほか、大学をはじめ、研究用途向けなどもある。

昨今の急速な日中関係悪化については、注視しているものの、今のところ大きな影響はみられず、同社の足元の業況は前年と同等レベルという。ただ、中国の国産化の流れは強

いと捉えており、半導体製造装置や周辺機器向けで手がける流体計測制御機器について地生産を検討しているも、中国企業向けは現方針だ。